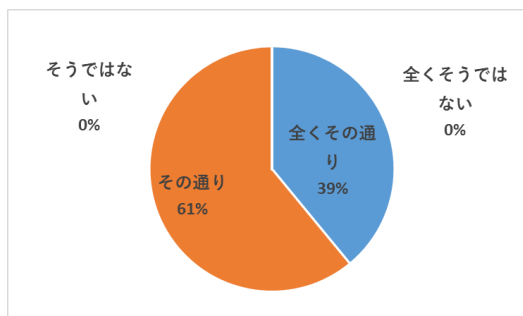


令和5年度多分野の専門職合同フォローアップ研修会アンケート

1 フォローアップ研修の全体について

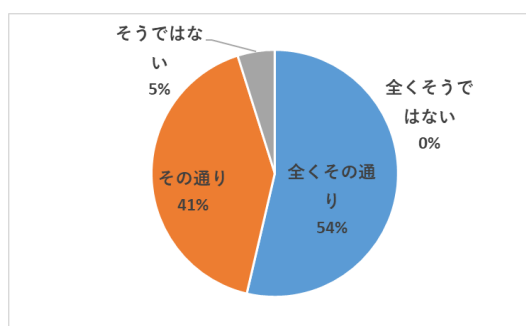
(1) 過去に参加した専門職合同研修会のフォローアップとして期待通りであった。

	人
全くその通り	16
その通り	25
そうではない	0
全くそうではない	0



(2) 研修で学んだ(得た)ことを職場や業務の実践に活用できそうである。

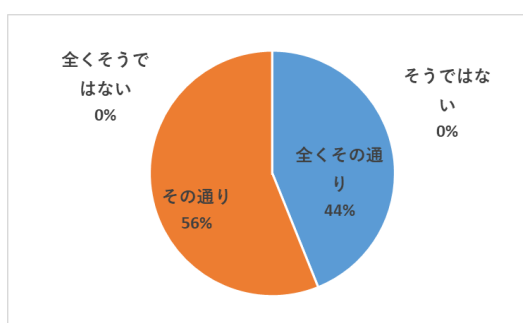
	人
全くその通り	22
その通り	17
そうではない	2
全くそうではない	0



2 事例検討・演習について

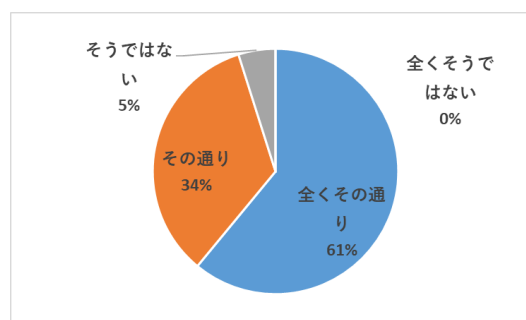
(1) 事例検討・演習は期待通りであった。

	人
全くその通り	18
その通り	23
そうではない	0
全くそうではない	0



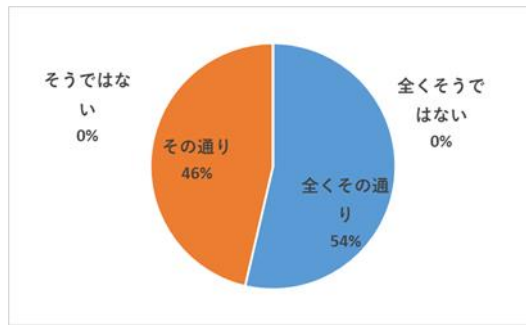
(2) 分野を超えた多機関協働の実践に役立つと感じた。

	人
全くその通り	25
その通り	14
そうではない	2
全くそうではない	0



(3) 自由で活発な意見交換ができた。

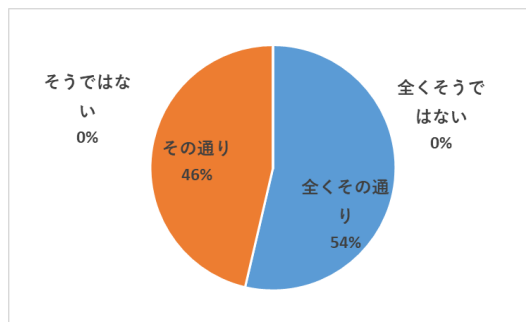
	人
全くその通り	22
その通り	19
そうではない	0
全くそうではない	0



3 グループワーク（振り返り）について

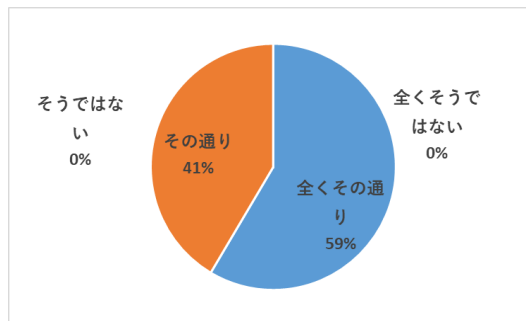
(1) グループワークは期待通りであった。

	人
全くその通り	22
その通り	19
そうではない	0
全くそうではない	0



(2) 自由で活発な意見交換ができた。

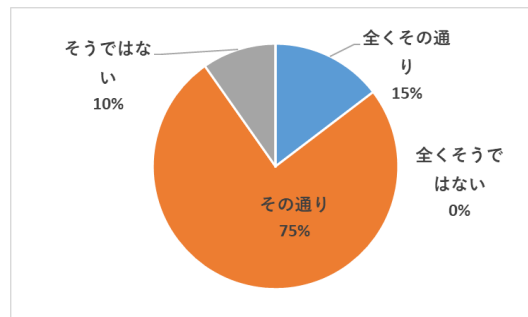
	人
全くその通り	24
その通り	17
そうではない	0
全くそうではない	0



4 過去の専門職合同研修後の受講後について

(1) 対象者の世帯全体を見る視点を持ち、「断らない相談支援」を実践している。

	人
全くその通り	6
その通り	31
そうではない	4
全くそうではない	0



それはどんなことか。

【断らない支援から全世代を対象とした世帯まるごと支援の視点】

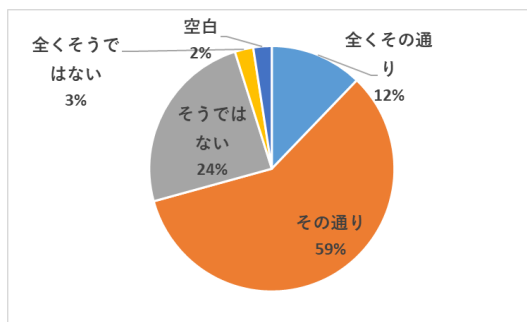
- ・断らないことはもちろんですが、世帯全体の中にある問題に気づく力が必要だと感じた。
- ・対象者本人だけでなく、世帯の状況や環境についても把握できるように努めている。
- ・対象者だけに着目せず世帯全体の課題に努めている。
- ・関わりを持った利用者からの聞き取りや家族状況から他に支援が必要な人がいるのか把握する。
- ・自分の関わる分野以外のことも話を聞き、一緒に考えるよう心掛けています。
- ・まずは、聞くように心がけている。
- ・高齢者が中心だが、世帯の課題はないかという視点は大事にしている。
- ・「断らない相談支援」と言われるとできるできないは、伝えているため、判断が難しい。世帯全体というより本人に関する人としての視点が強い。
- ・相談時になるべく掘り下げるように気を付けている。
- ・関りをもっているもっていないにかかわらず、まずは相手の困り感を聞く、受け止めることから始め支援している。
- ・地域の方からの相談（立ち上げ支援、サロンの紹介等）は出来る範囲で応えられるように努めている。
- ・相談者からの話は必ず聞き取り、自身が関われる分野ではないとの判断でも他の分野で対応できないか考える。
- ・本来は、未就労者の方が対象となりますが、困っている人であれば相談にのる様にしている。
- ・何げなく声をかけ、聞き取るようにしている。
- ・電話相談 面談をまずは
- ・サポステにつながった利用者さんから保護者や家庭に介入
- ・何でも拒まず受付する姿勢はあるが、視点はもちつつも窓口は、少ない。

【適切な機関に確実につなぐシームレスな支援】

- ・直接支援ができない場合でも、適切な機関に繋げられるように支援している。
- ・自分の専門分野で解決できないことがあっても他機関へつながる継続的につながる事を意識した関わりをする。
- ・自分の課や担当では把握や支援が難しい場合は、他分野と連携を図る（情報提供）ようにしている。
- ・担当分野外の相談が入った際、どこかにつなぐことができるようにしている。
- ・自分で解決が難しいと思う場合も、きちんと適切な相談先につなぐよう心がけている。
- ・高齢者の支援で世帯に初めて関わり、障がいの方、子どもなど支援が必要な方がいた場合はその分野へつなぐ様にしている。
- ・意思決定支援を心掛けている
- ・退院後や外来も含めた相談や関係機関との連携をするよう心がけている。
- ・話はきちんと聞くように心がけている。自分の機関でできること、できないことはあるので、他機関につなげることもあります。
- ・自分の対象外の相談であっても対象のサービスにつなぐよう心がけている。
- ・相談を受けても、部署として支援につなぐのみになることが多く、自分の職種を活かせていないともどかしい事がある。
- ・保健所の期待値（受診、入院）が高く必ずしも応じられないことがある。
- ・屋台に来ていただいた方（気になる方）ならだれでもOKで話にのります。

(2)関係機関の役割を理解し、分野から一步踏み出した多機関協働を実践している。

	人
全くその通り	5
その通り	24
そうではない	10
全くそうではない	1
空白	1



それはどんなことか。

【制度の狭間の対象者に一步踏み出す支援やつなぐ支援】

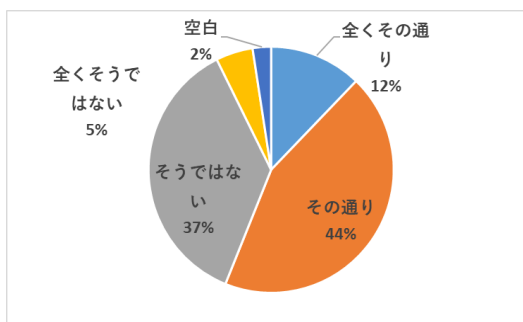
- ・複数の課題をかかえている世帯の相談も多く、必要に応じて多機関で支援できるよう調整するなど心がけている。
- ・子どもの障害者手帳の取得の同行。
- ・分からない事は、他機関に積極的に聞く事になっている。
- ・コミュニティナースの役割はさまざま、色々な可能性があると思う。他の役割を考え、一步踏み出すような協働を目指します。
- ・担当分野外の相談が入った際、どこかにつなぐことができるようにしている。
- ・まずは各機関の役割を理解し、今後実践していきたい
- ・関係機関や関係者をなるべく増やすようにしている。
- ・まちの保健室に地域包括の方も来てくれている。10月に夫の認知症介護をされた方が翌月には、ご本人も認知症になっていた。すでに地域包括と繋がっていたので、多機関と協力しながら見守ることが出来た。
- ・子どもや障がい分野について知らないことも多いので、もっと協働して関係を作っていくかといけないと思った。
- ・多機関協働はしているが相手が求める情報が不足してしまうことがある。
- ・そうありがたいと思う。
- ・今までの対応から少しやれそうな事や連絡など行うようにしている。
- ・保育課の分野に踏み出し、理解を深める真最中です。
- ・つなぐのみです。
- ・まずは保健所ができることから実施しており、なかなか一步踏み出せているか疑問がある。

【多機関との積極的な情報共有や様々な支援】

- ・必要に応じて医療機関や世帯の支援者と情報共有している。
- ・一人がかかえこまない協力できる機関は、多いとよいと考えている。
- ・たとえば不登校の支援をする場合であっても、関係のない問題が不登校につながる事もあるので、一つ一つ話を聞き他機関へ相談している。
- ・中学、高校、大学、企業
- ・かかわるタイミングや多機関との思いのズレに難しいと感じている。
- ・特に高齢者分野の担当職員さんと関わりをもっていると思う。
- ・障がい、生活支援課と連携をとることが多く、子どもや母性の関係機関と関わる機会が少ない。今回もその分野の事を学べたので、よかった。
- ・これまで受けていなかった医療的ケア児のレスパイトについても検討中。
- ・春日井市からひきこもりの支援の依頼をうけて行ったり、中村 哲さんの映画上映を通して助け合い社会の未来を考えるワークショップを実施予定。
- ・とりあえず聞く事からはじめている。
- ・このような研修会に参加し、顔を知る事で、関係機関に相談しやすくなったケースがあった。
- ・一步前には踏み出していない。

(3)地域住民や民間団体との連携・協働（地域支援）を実践している。

	人
全くその通り	5
その通り	18
そうではない	15
全くそうではない	2
空白	1



それはどんなことか。

【民生委員や地域の団体を巻き込んだ共助の輪】

- ・民生委員や区長さんに事業の説明等を行い、情報を共有している。
- ・サロンへの紹介、民生委員さんとの連携
- ・放デイなどと協力しながら子ども一人一人の支援に関わっている
- ・フードボランティア、草むしりなど
- ・他の団体とも協力している（参加している。つながっている）
- ・民生委員、老人会、地区社協、サロン会など
- ・民生委員の方と連絡を取るなどしている
- ・まちの保健室に来てくださった方の高齢者サロンに行き、お互いを応援できる関係作りをした
- ・民間保育施設、認可外保育施設へ出向き、関係づくりに努めている。
- ・視覚障がい者のサポートグループ
- ・春日井市からひきこもりの支援の依頼をうけて行ったり、中村 哲さんの映画上映を通して助け合い社会の未来を考えるワークショップを実施予定。

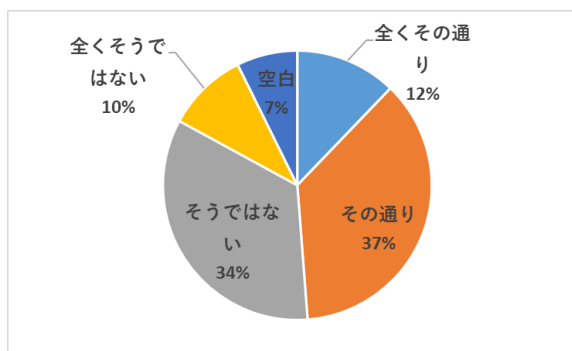
【地域支援は関りを作るところから】

- ・民間団体（インフォーマル）な資源については、自分もまだ知識がなく実践に至ってはいないことが多いので、今後できる様にしたい。
- ・まだその事例にかかわる機会がない。
- ・地域住民と関わる機会が少ない
- ・地域住民から相談を受けるが、連携はできていないと感じている。
- ・なかなか地域に・・・というのは難しいと感じる。
- ・地域住民とは、難しい面があります。訪問時に話すことで関わりをもつ位です。
- ・地域住民の方と関わりを持つ機会がなかなかないと感じている
- ・普段の業務では、地域の方とはもちろん関わっていますが、民間との関わりが今後の目標です。
- ・自身の情報不足のため連携を取れずにいる
- ・附属機関としては地域支援に力を入れているが、自分自身はまだなかなか難しい状況です。
- ・フードバンクの情報は、積極的に集めていたが、地域の集まりやボランティア活動の情報を集めたり、活用する機会がほとんどなく、実践できているとはいえない。
- ・直接的にはない。包括の活動を通してとなっている。
- ・連携、協働は地域が偏ってしまう。まだまだ担当全地域への実践はまだまだと思う。
- ・インフォーマルな支援も大切に作る。
- ・単体ではできることは少ないので、福祉サービスについて積極的に連携している。

5 地域支援研究会について

(1) 研究会について、興味がある。

	人
全くその通り	5
その通り	15
そうではない	14
全くそうではない	4
空白	3



6 今後、研修に期待すること

【さらなる多分野・多職種との関係づくり】

- ・今回の研修を通して自分の知らなかった資源を知ることができた。多分野連携を行うにもそもそもどういった支援者がいて何をしているか知らないと連携先が分からず世帯支援にも繋がらない。今後も他分野の人とお会いして、自分の資源や相談連携先を広げていけると良いと思った。
- ・他機関がどのような役割をもっているか生の声をきくことができるので、「相談できるかも」と思える。自分の引出しが増やせたと思う。
- ・研修の組み立て方がとてもよく考えられているなあと感じた。重層事業で大切にされている「重層化」「包括化」につながるいい研修会でした。
- ・分野の違う方たちとつながりができること・色々な視点からの関わりができることを学ぶなど
- ・多分野の様々な制度や支援について話を聞いたことは有意義だった。
- ・顔の見える関係作りができる場なので参加者として今後も関わりたいと思う
- ・普段から関わる機会のない機関の方と顔が分かるつながりができることがありがたいです。
- ・多分野の方が一同に介する貴重な機会だと思う。
- ・顔の見える関係作りは大切だと思うので、今後も続けてほしい。
- ・地域支援研究会では、それぞれの分野でいま行っている事業の内容や適切な支援方法を学ぶことができるので定期的に情報を得る上でも、分野を越えた相談員の顔の見える関係の研修や交流会は大切だと感じた

【継続的な研修で多機関協働の強化】

- ・つながり、協働ができるようにこういった研修機会が定期的にあると有難いです。他のスタッフの参加も促していきたい。
- ・ゆるく継続してもらえると嬉しいです。
- ・継続とつながり作りです。
- ・グループワークをする体験型の研修に参加できたことで、イメージがついた事や他のグループの意見を聞くことで多面的に知る事ができた
- ・どんどん新しい制度や事業ができてくるので、知識をアップデートしていかなければと思った。
- ・自分の知識としていろいろな視点からたくさんの情報は収集したい。

【新たな提案から情報発信へ】

- ・この研修を通して作ったシナリオを一般市民に広く知っていただけたらと思った。例えば民生委員さんが知るだけでも、どこに繋がればいいか分かり有用な物になると思う。
- ・計画相談員も巻き込んで行ってほしい。